

◎令和 7 年度 江戸川区立篠崎第五小学校 第 3 学年国語科 評価規準

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
よく聞いて、じこしょうかい (話・聞) ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知・技(1)イ) ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。(思・判・表 A(1)エ) ■自己紹介をする。 ☆楽しい学級づくり (特別活動)	1 扉の詩を読み、目次や P5「国語の学びを見わたそう」を見て、国語学習の見通しをもつとともに、学習の進め方を確かめる。 2 P13 を読み、3 年生の国語学習での目標や楽しいなことを書く。 3 P14-15 を読んで活動の流れを確かめ、自分の「すきなもの」を一つ考えて、前の人の話を繰り返しながら、順番に紹介し合う。 4 友達の好きなものを聞いた感想を伝え合う。	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。(A(1)エ) 【態】積極的に相手を見て話したり聞いたりし、学習課題に沿って自己紹介をしようとしている。
どきん (読) ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表 C(1)カ) ■詩を楽しんで音読する。	1 「どきん」を読み、詩の特徴を確認する。 2 言葉の調子を楽しみながら、音読の練習をする。 ・行末の擬声語や擬態語に注意する。 ・強弱をつけたり、身振りを交えたりして読む。 3 音読を聞き合い、読み方を工夫したところを伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・音読をして感じた楽しさをノートに書く。 ・「この本、読もう」で、詩集を読み広げることに関心をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って楽しんで詩を音読しようとしている。
わたしのさいこうの一日 つづけてみよう (書) ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ) ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。(知・技(1)オ) ■日記を書く。	1 「さいこうの一日」の日記を書くことを確認し、したいことや起こってほしいことを書き出す。 2 「さいこうの一日」の日記を書く。 3 書いた日記を読み合い、感想を伝え合う。 4 P20「つづけてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。(1)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】経験したことや想像したことなどから書くことを進んで選び、学習課題に沿って日記を書くようとしている。

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
□登場人物の気持ちをたしかめ、そう ぞうしたことをつたえ合おう 春風をたどって (読) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語 句の量を増し、語彙を豊かにするこ とができる。(知・技(1)オ) ◎登場人物の行動や気持ちなどについ て、叙述を基に捉えることができる。 (思・判・表C(1)イ) ○文章全体の構成や内容の大体を意識 しながら音読することができる。 (知・技(1)ク) ■読んで想像したことを伝え合う。 ☆自然のすばらしさや不思議さを感じ 取り、自然や動植物を大切にすること を育てる題材(道徳)	1 学習の見通しをもつ。 ・P21を見て、どのような物語なのかを想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 四つの場面での「ルウ」の行動を確かめながら音読する。 3 「ルウ」の気持ちが分かる言葉を見つけ、ノートに書く。 ・P32「言葉に着目しよう」を参考にして、「ルウ」の気持ちが分かる言葉をまとめる。 4 「ルウ」の気持ちの変化を具体的に想像し、ノートにまとめる。 5 物語の続きを想像し、ノートに書く。 6 友達の書いたものを読み、感想を伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) 【態】進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
図書館たんていだん (知・技) ◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ■図書館の地図を作り、本を探す。 ☆図書館の配架を知る活動(図書館活用)	1 P35の写真を参考にして、学校図書館の工夫を考える。 2 P36を読み、図書館では内容ごとに本が分類され並べられていることを知る。 3 学校図書館に行き、本の分類を理解する。 ・グループで学校図書館の地図を作り、棚ごとにどのような種類の本があるのかを調べる。 ・読みたい本や必要な本を、紹介コーナーや棚の番号などで探す。 ・読書記録のつけ方を知る。	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【態】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。
国語辞典を使おう (知・技) ◎辞書の使い方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ☆考えをまとめる活動などの漢字の確かめ(総合的な学習の時間など)	1 国語辞典を使うときについて考える。 ・「問いをもとう」を基に、どのようなときに国語辞典を使うのかを考える。 2 国語辞典の見方を理解する。 ・国語辞典を開いたり、P38の二次元コードを参考にしたりして、「国語辞典のれい」の内容を確かめる。 3 見出し語の見つけ方を理解する。 ・国語辞典では、どのような決まりで言葉が示されているかを知る。 4 言葉の意味を調べる。 ・P40の設問に取り組み、示されているいろいろな語を辞書で引く。 ・調べて分かった意味をノートにまとめる。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	【知・技】辞書の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【態】進んで辞書の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を使おうとしている。
漢字の広場① (書) ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2 P41を見て、動物や人の様子や、行動について説明する。 3 提示されている漢字を使って、動物園の様子を文に書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとする。

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
春のくらし (書) ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ■春を感じたことについて、文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳) ☆春を感じたものの撮影(ICT活用)	1 「みどり」を読み、生活の中で春らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた春を感じたものについて書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
口知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう もっと知りたい、友だちのこと 【コラム】きちんとつたえるために (話・聞) ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知・技(1)イ) ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。(思・判・表 A(1)エ) ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。(思・判・表 A(1)ア) ■知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりする。 ☆友達の新たな一面やよさを知る活動(特別活動、道徳)	1 学習の見通しをもつ。 ・友達のことを知るために、グループになって話を聞き合う方法を知る。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 友達に知らせたいことを決めて、ノートに書く。 ・友達に知らせたいことを箇条書きでノートに書き、その中から一つに決める。 3 話の聞き方や質問のしかたについて確かめる。 ・P45「しつもののしゅるい」を参考にして、質問の種類や話の聞き方を整理する。 4 友達の話を聞いて、質問する。 ・P46 の二次元コードから、聞き方や質問のしかたのよいところを考える。 ・聞き手は、話の中心に気をつけて聞き、自分が特に知りたいことをはっきりさせ、質問を考える。 ・大事なことを落とさないように質問したり、答えたりする。その際、P48「きちんとつたえるために」を参考にしてもよい。 5 どのような質問で話が広がったり、友達のことがよく分かったりしたかを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で、単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。その際、P148「インタビュー」を参考にしてもよい。	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。(1)イ) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。 (A(1)ア) ・「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。 (A(1)エ) 【態】粘り強く話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって話したり、質問したりしようとしている。
漢字の音と訓 (知・技) ◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。(知・技(1)エ)	1 漢字の「音」と「訓」の特徴を理解する。 ・P150「これまでに習った漢字」を使うなどして、既習の漢字の音と訓を確かめる。 2 音と訓の使い分けを練習する。 ・P51 の設問に取り組む。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。(1)エ) 【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿ってよりよく漢字を学ぼうとしている。
漢字の広場② (書) ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○接続する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることが	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2 P52 を見て、宝物を探しに出かけた男の子の話を簡単に考える。 3 「そこで」「けれども」など接続詞の使い方を確認する。 4 提示されている漢字を使って、文を書く。 5 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) ・接続する語句の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
できる。(思・判・表 B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。		を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
口まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう 文様 こまを楽しむ 【じょうほう】全体と中心 (知・技・読) ◎全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。 (知・技(2)ア) ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。(思・判・表 C(1)ア) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○目的を意識して、中心となる語や文を見つめることができる。(思・判・表 C(1)ウ) ■説明する文章を読み、感想を伝え合う。 ☆伝統や文化を知り、歴史を愛する題材(道徳)	1 学習の見通しをもつ。 ・P53を見て、文様やこまについて知っていることを発表し合う。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「文様」の構成を捉える。 ・P160を参考に「問い」と「段落」の意味を理解する。 ・「問い」に書かれていることを確かめる。 ・「問い」の「答え」に当たる部分はどこかを考えながら音読する。 ・文章全体の「まとめ」にあたる段落を確かめる。 3 「こまを楽しむ」の構成を捉える。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習のめあてを確かめる。 ・文章の中の「問い」を二つに分けて、ノートに書く。 ・段落に番号を付けて、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに分ける。その際、P65「全体と中心」を参考にするとよい。 ・「中」に書かれている「問い」に対する「答え」を確かめ、ノートに整理する。 ・「中」には、「答え」の他にどのようなことが書かれているかを確かめ、そのことが書かれている理由を考える。 ・「おわり」に書かれていることを確かめ、その役割を考える。 4 遊んでみたいこまについて、ノートにまとめる。 ・六つのこまの中から、いちばん遊んでみたいこまとその理由をノートに書く。 5 いちばん遊んでみたいこまについて、グループで話し合う。 ・友達の感想との共通点や相違点など、気づいたことをノートに書く。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・段落の役割について理解している。(1)カ) ・全体と中心など情報と情報との関係について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。(C(1)ア) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) 【態】進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。
口相手に分かりやすいように、あんないの手紙を書こう 気持ちをこめて、「来てください」 (書) ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。(知・技(1)キ) ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表 B(1)エ) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくこと	1 学習の見通しをもつ。 ・運動会や学習発表会などの、誰かに見に来てほしい行事や、手紙を送りたい相手を想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 手紙を送る相手を決め、伝えることをメモに整理する。 ・日時、場所、行事の説明、気持ちなど、行事を案内するときに何を書くときよいかを考える。 3 P68「土川さんの手紙」を読み、手紙の組み立てを確かめる。 4 組み立てに沿って手紙を書き、読み返す。 ・P68「あんないの手紙を読みかえすときは」を参	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。(1)ア) ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。(1)キ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】粘り強く、間違いを正したり、

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
ができる。(知・技(1)ア) ■行事を案内する手紙を書く。 ☆時と場に応じた適切な手紙を書く活動(社会、総合的な学習の時間)	考にして文章を整える。 ・書き終わったら、声に出して読み返し、確かめる。 5 手紙を届ける。 ・郵便で送る場合は、住所と宛名を書く。その際、P147「手紙を送ろう」を参考にするとよい。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整え、学習の見通しをもって行事を案内する手紙を書こうとしている。
漢字の広場③ (書) ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2 P70 を見て、日曜日の出来事と家の人の今週の予定を簡単に考える。 3 提示されている漢字や時を表す言葉を使って、文を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
口登場人物のへんかに気をつけて読み、すきな場面について話し合おう まいごのかぎ (読) ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ■物語を読んで、好きな場面について話し合う。	1 学習の見通しをもつ。 ・P71 を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「まいごのかぎ」を場面に分ける。 ・場所や出来事に気をつけて読み、場面分けする。 ・各場面での出来事や、そのときの「りいこ」の気持ちをノートにまとめる。 3 物語の最初と最後で「りいこ」にどのような変化があったのかを考える。 ・「りいこ」の言動を表す言葉に着目して、不思議な出来事に対する「りいこ」の考え方や気持ちをまとめる。 4 好きな場面とその理由をノートに書く。 ・「りいこ」の変化との関わりを考えながら、ノートにまとめる。 5 好きな場面を友達と伝え合い、自分の考えとの共通点や相違点を話し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の好きな場面について話し合おうとしている。
俳句を楽しもう (知・技) ◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ■俳句を音読する。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳) ☆五音と七音を組み合わせた詩などを探す活動(図書館活用)	1 俳句の決まりを知る。 ・俳句は、「5・7・5」の17音で作られていることや季語があることを確認する。 2 俳句を声に出して読む。 ・どこで区切るかを考えたり、音のリズムを確かめたりして、言葉の響きや調子を楽しむ。 ・P92の二次元コードから音声を聞くのもよい。 3 気に入った俳句を音読したり暗唱したりする。 4 P93を読み、身の回りの五音と七音を組み合わせた詩や歌を探す。 5 探した詩や歌を友達と見せ合う。	【知・技】易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って俳句を音読しようとしている。

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
こそあど言葉を使いこなそう (知・技) ◎指示する語句の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)	1 「こそあど言葉」を知る。 ・「問いをもとう」を基に、生活の中でうまく伝わらなかったことを想起する。 ・「こそあど言葉」には、相手との距離や目的などによって、使い分けがあることを理解する。 ・P95 の設問①に取り組む。 2 「こそあど言葉」を使うことで、文をより簡潔に表現できるようになることを理解する。 3 P95 の設問②・③に取り組み、「こそあど言葉」が指す語句を考えたり、短い文章を作ったりする。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	【知・技】指示する語句の役割について理解している。(1)カ) 【態】積極的に指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って使おうとしている。
【じょうほう】引用するとき (知・技、書) ◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ) ■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。 ☆調べたことを文章にまとめる活動(社会など)	1 「引用」を知る。 ・P96 を参考に、本などから調べたことを報告する際は、自分の考えと区別しなくてはならないことを理解する。その際、P160「学習に用いる言葉」を確かめる。 2 「引用」の決まりを理解する。 ・文章の中で引用する際の決まりを確かめる。 ・出典の示し方を理解し、それが奥付にまとめられていることを知る。 3 P56「こまを楽しむ」から引用して、興味をもったこまとその遊び方を紹介する文章を書き、友達と読み合う。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	【知・技】引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】書くことにおいて、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書こうとしている。
□つたえたいことをはっきりさせて、 ほうこくする文章を書こう 仕事のくふう、見つけたよ 【コラム】符号など (書) ◎相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ○改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。(知・技(1)ウ) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ) ■調べたことを報告する文章を書く。 ☆調べたいことを決めて、調査を行い、報告する文章にまとめる活動(社会、総合的な学習の時間) ☆調べる仕事についての本を探す活動(図書館活用) ☆見つけた工夫の撮影 (ICT活用)	1 学習の見通しをもつ。 ・大人になったらしたい仕事を話し合い、そこにはどのような工夫があるかを想像する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 身の回りにある仕事の中から、調べてみたい仕事を選ぶ。 3 仕事について調べ、伝えることを選ぶ。 ・興味のある仕事について、本を読んだり、見学をしたり、インタビューをしたりして調べる。 ・調べて分かったことはメモをする。 ・P99「つたえることをえらぶときは」やP100「土川さんのメモ」を参考にするとし、特に伝えたいことは何かを考え、読み手のことを意識して伝えることを選ぶ。 4 報告文の組み立てを考える。 ・P100 を参考に、伝えたいことを内容のまとまりに分けて整理する。 5 報告文を書く。 ・P101の文章や二次元コードを参考にし、気をつけることを確認してから書き始める。 ・句読点などの使い方などにも注意して書く。その際、P103「符号など」を参考にするとよい。 6 報告文を友達と読み合い、感想を伝え合う。 ・報告文の書き方や印象に残ったことなどについて伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。(1)ウ) ・段落の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって調べたことを報告する文章を書こうとしている。

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
夏のくらし (書) ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ■夏を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳) ☆夏を感じたものの撮影(ICT活用)	1 「はなび」を読み、生活の中で夏らしさを感じることを挙げる。 教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた夏を感じたものについて、ノートに書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	【知・技】語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
口本は友だち 本で知ったことをクイズにしよう 鳥になったきょうりゅうの話 (読) ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表 C(1)カ) ■図鑑や科学読み物を読んで、クイズを出し合う。 ☆本を選んで読む活動(図書館活用)	1 学習の見通しをもつ。 - 本から新しい知識を得た経験を想起する。 - 学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 本の読み方について考える。 - どんな本を、どのように読んでいるかを友達と話し合う。 - P160 を見るなどして、索引の使い方を理解する。 3 P108 を参考に、図鑑や科学読み物などの本の種類について知る。 4 「鳥になったきょうりゅうの話」を読み、初めて知ったことを伝え合う。 5 本を選んで読み、クイズ大会を開く。 「この本、読もう」などを参考にして本を選んで読む。 - 驚いたことや友達が知らないと思うことなどからクイズを考え、友達と出し合う。 6 学習を振り返る。 「読書に親しむために」で本の読み方を押さえる。	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。
わたしと小鳥とすずと 夕日がせなかをおしてくる (読) ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表 C(1)エ) ■詩を読んで、思ったことや感じたことを話し合う。	1 二つの詩を音読する。 - 連ごとに様子を思い浮かべながら音読する。 2 「わたしと小鳥とすずと」を読み、どうして「わたし」は「みんなちがって、みんないい。」と言っているのかを考え、話し合う。 3 「夕日がせなかをおしてくる」を読み、誰が、どのように「さよなら」を言っているのかを考え、話し合う。 4 連と連の関係を考えながら二つの詩を読み、気づいたことや考えたことを話し合う。 5 学習を振り返る。 「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(C(1)エ) 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を読んで思ったことや感じたことを話し合おうとしている。
こんな係がクラスにほしい (話・聞) ◎考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。(知・技(2)ア) ◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。(思・判・表 A(1)オ) ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較した	1 クラスの係活動を振り返り、新しく作りたい係を考える。 - 思いついた係や仕事を付箋に書き出す。 2 グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 - 理由と目的を出し合い、質問するなどして考えを広げる。 - 目的や仕事内容に分けて付箋に書き、話し合ったことを整理する。 3 グループで話し合ったことを発表する。 - それぞれのグループの発表を聞いて、感想を伝え合う。	【知・技】考えとそれを支える理由や事例について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりしている。(A(1)ア) 「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
り分類したりすることができる。 (思・判・表 A(1)ア) ■グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 ☆係活動における話し合い(特別活動)	4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。(A(1)オ) 【態】進んで互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見通しをもってグループで話し合い、考えを整理してまとめようとしている。
ポスターを読もう (読) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 (思・判・表 C(1)オ) ○比較や分類のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。(思・判・表 C(1)ウ) ■ポスターを読み比べて、考えたことを伝え合う。	1 身の回りには、どのようなポスターがあるのかを想起する。 2 P124「ポスターのれい」を見て、工夫しているところを話し合う。 ・「キャッチコピー」について、P160「学習に用いる言葉」で確認するとよい。 3 P126-127 の(ア)(イ)のポスターを比べて読む。 ・どちらのポスターのほうがお祭りに行きたくなるか、理由とともに友達と話し合う。 ・二つのポスターを比べて、共通点や相違点をノートに整理する。その際、整理のしかたは P163「図を使って考えよう」を参考にしてもよい。 ・ポスターが作られた目的や知らせたい相手を考えて、なぜ相違点があるのかを話し合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。(C(1)ウ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
書くことを考えるときは (書) ◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ◎相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ■夏休みの思い出を書く。	1 図を使って考えを広げることを知る。 ・中心にテーマを書き、線でつなぎながら考えを広げる。 2 書くことを選ぶ。 ・相手や目的を意識して書くことを選ぶ。 3 選んだことを基に文章に書く。 4 文章を友達と読み合う。 ・図を見ながら、どのようにして書くことを選んだのかを伝え合う。 5 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。(2)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】粘り強く集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って夏休みの思い出を書こうとしている。
漢字の組み立て (知・技) ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。(知・技(3)ウ)	1 「へん」「つくり」を知る。 ・P130 を参考に、2 枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P131 の設問に取り組み、国語辞典で確かめる。 2 「へん」「つくり」以外の漢字の組み立てを知る。 ・P132 を参考に、2 枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P133 の設問に取り組み、国語辞典で確かめる。	【知・技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。(3)ウ) 【態】漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて粘り強く理解し、学習課題に沿って漢字の構成を捉えようとしている。
ローマ字 (知・技) ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。 (知・技(1)ウ) ☆ローマ字入力（I C T活用）	1 P138 の写真を参考に、身の回りにあるローマ字表記を想起する。 2 P137 のローマ字表を見ながら、ローマ字表記について知る。 ・ローマ字表の見方、書き表し方の決まり、ローマ字入力について理解する。 ・P135 の設問に取り組む。 3 ローマ字入力に取り組む。 ・P134 の設問に取り組む。 ・好きな言葉などをローマ字で入力する。	【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。(1)ウ) 【態】進んでローマ字で表記されたものを読み、学習課題に沿ってローマ字で書いたり入力したりしようとしている。

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
口場面をくらべながら読み、感想を書こう ちいちゃんのかげおくり (読) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)オ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 (思・判・表C(1)オ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。 (思・判・表C(1)エ) ■物語を読み、感想をまとめる。 ☆戦争や平和について考え、平和を願う心を養う題材 (道徳)	1 扉の詩を音読したり、P5「国語の学びを見わたそう」を見たりして、下巻の学習を見通す。 2 学習の見通しをもつ。 ・P13を見て、どのような物語なのかを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 3 第1場面と第4場面の「かげおくり」の様子を比べ、共通点や相違点を確かめる。 ・二つの「かげおくり」の間には、どのような出来事があったかを考える。 4 第1場面から第4場面までの「ちいちゃん」の気持ちの変化を想像する。 ・行動や様子を表す言葉から、「ちいちゃん」の気持ちを想像する。 5 第5場面があることで、どんなことが分かるかを第4場面までと比べて考える。 6 「ちいちゃんのかげおくり」を読んで感じたことを、理由とともに文章にまとめる。 ・P29「まとめ方のれい」を参考にして、場面を比べて読んだり、詳しく読んだりして感じたことを、ノートに書く。 ・P165「言葉のたから箱」を参考にするとよい。 7 友達と感想を読み合う。 ・感じ方の共通点や相違点について交流する。 8 学習を振り返る。 ・初発の感想と比べて、どのような読みの変容があったかを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・単元で身につけた力をいかして、P144「メロディ——大すきな わたしのピアノ」を読むことを確かめる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 (1)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 (C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。 (C(1)オ) 【態】 文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って物語を読んだ感想をまとめようとしている。
修飾語を使って書こう (知・技) ◎主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解することができる。 (知・技(1)カ) ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。 (知・技(1)オ)	1 修飾語の働きを知る。 ・「問いをもとう」を基に、文が分かりにくい理由を考える。 ・主語と述語について、既習の内容を確認する。 ・修飾語によって、文の内容が詳しくなることを理解する。 2 修飾語について、理解していることを確かめる。 ・P33の設問に取り組む。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。 (1)オ) ・主語と述語との関係、修飾と被修飾との関係について理解している。 (1)カ) 【態】 粘り強く修飾と被修飾との関係について理解し、学習課題に沿って修飾語を使って文を書こうとしている。
秋のくらし (書) ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。 (知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。 (思・判・表B(1)ア) ■秋を感じたことについて文章に書く。	1 「虫の声」を読み、生活の中で秋らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた秋を感じたものについて、ノートに書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	【知・技】 語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 (1)オ) 【思・判・表】 「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。 (B(1)ア) 【態】 積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆秋を感じたものの撮影（ICT活用）		した文章を書こうとしている。
□進行にそって、はんで話し合おう おすすめのーさつを決めよう（話・聞） ◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表 A(1)オ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表 A(1)ア） ■グループで役割を決めて話し合い、考えをまとめる。 ☆インタビューによって調査する活動（社会、総合的な学習の時間） ☆おすすめの本を選ぶ活動（図書館活用）	1 学習の見通しをもつ。 ・1年生から依頼があり、班ごとに楽しい本を決めて紹介するという設定を確認する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 目的と決めることを確かめ、紹介したい本とその理由を付箋に書く。 3 役割を決め、進め方を確かめる。 ・司会、記録、計時などの役割があることを確認する。 ・P37「進め方のれい」を参考にして、話し合いの進め方をノートに書く。 4 話し合いのしかたを確認する。 ・P38 の二次元コードで話し合いの例を見て、話し合いのしかたを知る。 ・P38-41 を見ながら、司会と参加者が気をつけることを確認する。 5 本を1冊に決めるために、グループで話し合う。 ・自分の役割を意識して、意見と理由を明確にしながら話し合いを進める。 6 学習を振り返る。 ・話し合いのしかたでよかったところを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 比較や分類のしかたを理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりして、伝え合うために必要な事柄を選んでいく。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ） 【態】 粘り強く司会などの役割を果たしながら話し合い、学習の見通しをもって考えをまとめようとしている。
□れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう すがたをかえる大豆 食べ物のひみつを教えます（書、読） ◎比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表 B(1)イ） ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つめることができる。（思・判・表 C(1)ウ） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く。 ☆食育に関わる題材（総合的な学習の時間） ☆食べ物について書かれた本を探す活動（図書館活用）	1 学習の見通しをもつ。 ・P43 を見て、大豆について知っていることなどを話し合う。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 文章全体の組み立てに着目して内容を捉える。 ・「はじめ」「中」「終わり」に分け、文章の話題を確かめる。 ・筆者が「中」で挙げている具体例を、表などにしてノートに整理する。 3 「はじめ」に「問い」を入れるとしたら、どのような「問い」を入れるかを考える。 4 「中」の書かれ方について考える。 ・それぞれの段落の中心となる文に線を引く。 ・どのような順序で事例が挙げられているのかを捉える。 5 筆者の説明の工夫をまとめ、考えを交流する。 ・文章全体の組み立てと各段落の組み立て、言葉の使い方、写真の使い方などに着目する。 6 P51の食べ物について書かれた本を読み、感想をまとめて友達に伝える。 ・初めて知ったことや説明のしかたなどの観点から感想をもつ。 7 学習を振り返り、次の学習の見通しをもつ。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 ・P52「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習のめあてを確かめる。 8 取り上げる材料について、調べて整理する。 ・P53「調べたことを整理するときは」を参考にし	【知・技】 ・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。（(2)イ） ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えていく。（B(1)イ） ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけていく。（C(1)ウ） 【態】 目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つめたり、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書こうとしている。

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
	て、調べたことを図や表にして整理する。 9 文章の組み立てと例の書き方を考える。 ・P53「組み立てを考えるとときは」を参考にして、段落や事例の順序などを考える。 10 説明する文章を書く。 ・考えた組み立てに沿って、説明する文章を書く。 ・読み返して、間違いなどがないかを確かめる。 11 友達と感想を伝え合う。 ・書き方と内容の両面から、文章のよいところを伝え合う。 12 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
ことわざ・故事成語 (知・技・書) ◎長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うことができる。(知・技(3)イ) ○目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ■ことわざの意味を調べ、ことわざ辞典を作る。	1 知っていることわざや故事成語を出し合い、関心をもつ。 2 ことわざや故事成語について知る。 ・P57 のことわざの意味を調べる。 ・P58 の故事成語の意味や由来を調べたり、P152「知る」と楽しい『故事成語』を読んで故事成語への関心を広げたりする。 3 グループでことわざ辞典を作る。 ・好きなことわざを選び、意味と文例をカードに書く。 ・どのような順でとじるかを話し合う。 ・できあがったことわざ辞典を読み合い、感想を伝え合う。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。(3)イ) 【思・判・表】「書くこと」において、目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】積極的にことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使い、学習課題に沿ってことわざ辞典を作ろうとしている。
漢字の意味 (知・技) ◎漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)ウ)	1 同じ発音でも、意味が違えば使われる漢字が違うことを知る。 ・漢字と仮名を交えて書くことで、意味が分かりやすくなることを理解する。 2 設問に取り組み、漢字を正しく使い分けて書く。 3 P154「これまでに習った漢字」から、同じ読み方で意味の異なる漢字を見つけ、短文を作る。	【知・技】漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使っている。(1)ウ) 【態】積極的に漢字と仮名を用いた表記を理解し、これまでの学習をいかして文や文章の中で使おうとしている。
短歌を楽しもう (知・技) ◎易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。(知・技(3)ア) ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)	1 短歌について知る。 ・短歌は「5・7・5・7・7」の31音で作られていることや、情景や心情が込められていることなどを確認する。 2 言葉の調子や響きを楽しみながら、声に出して繰り返し読む。 ・P63の二次元コードから、音声を聞くのもよい。 3 気に入った短歌を暗唱する。	【知・技】易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。(3)ア) 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って短歌を音読したり暗唱したりしようとしている。
漢字の広場④ (書) ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表 B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2 P64の絵を見て、町の様子を説明する。 3 提示されている漢字を使って、町の様子を説明する文を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
□登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしょうかいしよう 三年とうげ (書) ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。 (思・判・表C(1)イ) ○引用のしかたを理解し使うことができる。(知・技(2)イ) ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。(知・技(3)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 (思・判・表C(1)オ) ■民話や昔話を紹介する。 ☆世界の文化に対する興味・関心を促し、その理解を図る題材(道徳、総合的な学習の時間) ☆民話や昔話を探す活動(図書館活用)	1 学習の見通しをもつ。 ・これまでに読んだ民話や昔話を想起し、どんなところがおもしろかったかを伝え合う。 ・P65を見て、どのような内容の民話かを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・並行読書を行う場合は、P77「この本、読もう」なども参考にし、学校図書館などで民話や昔話の本を探して読む。 2 「三年とうげ」の内容や書かれ方を確かめる。 ・設定、登場人物、出来事、展開、登場人物の行動や気持ちなどの観点から内容をまとめる。 3 「おじいさん」の変化を捉える。 ・行動や様子を表す言葉に着目し、ノートにまとめる。 4 「三年とうげ」のおもしろいところをノートに書く。 ・出来事、登場人物の行動や気持ち、考え方、言葉の使われ方や文の調子などの観点からまとめる。 5 民話を選んで読み、紹介する文章を書く。 ・おもしろいところを引用しながら、民話を紹介する文章を書く。 6 書いた文章を読み合い、感想を交流する。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・引用のしかたを理解し使っている。(2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。(3)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。(C(1)イ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】 登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。
□しょうかいする文章を書き、感想をつたえ合おう わたしの町のよいところ (書) ◎書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つげることができる。(思・判・表B(1)オ) ○考えとそれを支える理由について理解することができる。(知・技(2)ア) ■町のよさを紹介する文章を書く。 ☆身近な地域を観察・調査する題材(社会) ☆文章に適切な写真の撮影(ICT活用)	1 学習の見通しをもつ。 ・自分が住む町には、どのようなものがあるかを想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 紹介するものを決める。 ・紹介したいものとその理由を図を使って書き出し、書くことを選ぶ。 3 組み立てを考える。 ・P83「水野さんの組み立てメモ」を参考にして、どのような順序で書くかを考える。 4 紹介する文章を書く。 ・P84「水野さんが書いた、しょうかいする文章」を読み、紹介する文章を書くときのポイントを確認する。 5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・内容と書き方の両面から感想を伝え合い、自分の文章のよい点を考える。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 考えとそれを支える理由について理解している。(2)ア) 【思・判・表】 「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) 【態】 積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、学習課題に沿って町のよさを紹介する文章を書こうとしている。
冬のくらし (書) ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○経験したことや想像したことなどか	1 「ゆき」を読み、生活の中で冬のしさを感ずることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた冬を感じたものについて、ノートに書く。	【知・技】 語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。(1)オ) 【思・判・表】 経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にして

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
ら書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表 B(1)ア) ■冬を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳) ☆冬を感じたものの撮影(ICT活用)	3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	いる。(B(1)ア) 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
詩のくふうを楽しもう (書、読) ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。 (知・技(1)ク) ○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表 B(1)オ) ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。 (思・判・表 C(1)オ) ■詩を創作する。 ☆詩を採る活動(図書館活用)	1 6編の詩を音読し、詩の工夫を見つける。 ・言葉のリズムや響きを楽しみながら音読する。 ・それぞれの行の最初の字をつなげたり、文字や詩全体の形を絵のように見たりする。 2 6編の詩の中から好きな詩を選び、おもしろいと思うところを友達と話し合う。 3 詩を創作する。 ・6編の詩の工夫をいかしながら創作する。 4 作った詩を友達と読み合い、交流する。 5 学習を振り返る。 ・活動を通して気づいた詩のおもしろさを発表する。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を創作しようとしている。
四まいの絵を使って (書) ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表 B(1)イ) ○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)	1 物語の基本的な組み立てを確かめる。 ・「始まり」「出来事」「解決」「結び」という組み立てを知る。 ・「三年とうげ」の組み立てを確かめる。 2 4枚の絵を並べ替えて、一つの物語を作る。 ・それぞれの絵について考えたことを、簡単に書き出す。 ・物語の基本的な組み立てを参考にして、おおまかな話の流れをメモする。 3 考えた物語の内容を友達と交流し、感想を伝え合う。 4 学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】段落の役割について理解している。(1)カ) 【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ) 【態】書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って物語の流れを書こうとしている。
カンジーはかせの音訓かるた (知・技) ◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)	1 設問の「カンジーはかせが作った歌」を音読する。 2 漢字の音と訓を両方使った歌を作る。 ・P95「作り方」を参考にして歌を作る。P154「これまでに習った漢字」、P159「この本で習う漢字」を参考にしてもよい。 ・正しく音と訓が使えているかを確認する。 3 作った歌を友達と読み合う。	【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿って漢字の音訓を使った文を書こうとしている。
漢字の広場⑤ (書) ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2 P96の絵を見て、学校でどんなことをしているのかを説明する。 3 提示されている漢字を使って、日記をつけるように学校の様子を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ) 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
たりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表 B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。		を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
□読んで考えたことをつたえ合おう ありの行列 (読) ◎指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ) ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表 C(1)オ) ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表 C(1)カ) ○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。(知・技(1)オ) ■文章を読んで考えたことを伝え合う。 ☆生き物の生態や不思議さに目を向けさせる題材(理科)	1 学習の見通しをもつ。 ・P97を見て、ありやありの行列について知っていることを出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「ありの行列」で説明されていることを確かめる。 ・「問い」と「答え」が、どの段落にどのように書かれているかを捉える。 ・ウイルソンが調べたことやそこから考えたことを捉える。 3 ウイルソンの研究の進め方、ありが行列を作る仕組みについて、書かれていることを短くまとめる。 ・P104「言葉に着目しよう」を参考にして、段落ごとに大事な言葉や文を見つける。 4 「ありの行列」とP103「もっと読もう」を読んで、考えたことを文章にまとめる。 ・興味をもったこと、もっと知りたいことを中心にして書く。 5 書いた文章を友達と読み合う。 ・共通点や相違点を見つけて伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。((1)オ) ・指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。((1)カ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。
□言葉について考えよう つたわる言葉で表そう (知・技、書) ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思・判・表 B(1)ウ) ■相手に伝わる文章を書く。 ☆体験したことを報告する文章にまとめる活動(社会、総合的な学習の時間)	1 学習の見通しをもつ。 ・P107を読み、「問いをもとう」を基に、伝えたいことがうまく伝わらなかった理由について考える。 2 体験したことや感じたことを、よりよく伝えるためにはどうするとよいかを考える。 ・様子や気持ちが伝わる言葉を使い、ロボロボの話し方を改善する。 ・似た意味でも言葉から受ける感じが違うことを知り、伝えたいことに合う言葉を選ぶ大切さを知る。 ・P109を読み、使える言葉を増やしていくきっかけについて考える。 3 冬休みの出来事とそのときの気持ちを200字で書き、友達と読み合って、学習の全体を振り返る。 ・P165「言葉のたから箱」を参考にしてもよい。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに積極的に気づき、学習の見通しをもって相手に伝わる文章を書くようとしている。
□書き表し方をくふうして、物語を書く たから島のぼうけん (書) ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ)	1 学習の見通しをもつ。 ・宝物を探す冒険というと、どんな物語が思い浮かぶか考える。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 P112-113の地図から想像を広げ、物語の構想を練る。 ・P112「物語のないようを考えるときは」を確認	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) 【態】進んで様子や行動、気持ちや性

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
◎書き表し方を工夫することができる。(思・判・表B(1)ウ) ■物語を創作する。	し、登場人物や出来事などを書き出す。 3 物語の組み立てを考える。 ・P92「四まいの絵を使って」で学んだことをいかし、「始まり」「出来事」「解決」「結び」の組み立てに当てはめる。 4 物語を創作する。 ・P114-115「物語のれい」を読み、書き表し方のよさを見つける。 ・比喩や修飾語を用いるなどして、読み手を引きつけるように言葉を選んで書く。 ・P114「書き表し方を考えるときは」を参考に、表現を工夫して書く。 5 友達の物語を読み、感想を伝え合う。 ・物語の内容と言葉の使い方のよさを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにし、学習の見通しをもって物語を創作しようとしている。
□つたえたいことを、理由をあげて話そう お気に入りの場所、教えます(話・聞) ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話することができる。(知・技(1)イ) ◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。(思・判・表A(1)イ) ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解することができる。(知・技(2)ア) ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。(思・判・表A(1)ウ) ■お気に入りの場所を発表する。 ☆発表に適切な写真の撮影(ICT活用) ☆発表の練習を撮影し見返すことでよりよくする活動(ICT活用)	1 学習の見通しをもつ。 ・学校の中で自分が好きな場所を出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 みんなに教えたいお気に入りの場所と、その理由を考える。 ・P117「話すことを考えるときは」を参考に、お気に入りの場所について考えを整理する。P167「図を使って考えよう」を参考にしてもよい。 3 分かりやすく伝えるために、資料を用意する。 ・どのような資料が必要かを考え、必要に応じて写真を撮りに行くなどする。 4 組み立てを考え、発表メモを作る。 ・P118「発表メモのれい」やP119「発表のれい」を参考に、組み立ての工夫を見つける。 ・「はじめ」「中」「終わり」の組み立てを意識し、分かりやすく伝わるように発表メモを作る。 5 グループで練習をする。 ・P118の二次元コードの動画を見て、話し方の工夫を確認する。 ・P119「話し方をくふうするときは」を参考に、ポイントを意識して練習をする。 ・必要に応じて練習の様子を撮影し見返して、話し方をよりよくする。 6 発表会を開き、感想を伝え合う。 ・組み立てや話し方についてよかったところを伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解している。((2)ア) 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えている。(A(1)イ) ・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。(A(1)ウ) 【態】進んで話の中心が明確になるように話の構成を考え、学習課題に沿ってお気に入りの場所を発表しようとしている。
□登場人物について考えたことを、つたえ合おう モチモチの木(読) ◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)	1 学習の見通しをもつ。 ・P121を見て、物語の内容や「モチモチの木」はどのような木なのかを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 場面ごとに登場人物の行動や会話などを確かめる。 3 登場人物の性格や気持ちの変化を想像する。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。

単元名・教材名・時数・指導目標	主な学習活動	評価規準
○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。(知・技(1)オ) ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。(思・判・表C(1)エ) ■登場人物について考えたことをまとめ、伝え合う。 ☆他者への愛情をもち、勇気をもって実行する姿勢を育てる題材(道徳)	・P134の「言葉に着目しよう」を参考にして、「豆太」の性格を想像する。 ・着目する点を選び、「豆太」は変わったのかどうかを考え、話し合う。 4「豆太」について感じたことや考えたことを、ノートに書く。 ・文章のどの叙述から考えたのかを明確にし、自分の経験と比べて考えたことをまとめる。 5まとめた考えを伝え合う。 ・友達の考えと自分の考えを比べて、共通点や相違点をノートに書く。 6学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	(C(1)エ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) 【態】登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に粘り強く想像し、学習課題に沿って考えたことをまとめ、伝え合おうとしている。
漢字の広場⑥ (書) ○第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ) ○修飾と被修飾との関係について理解することができる。(知・技(1)カ) ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。 2P137の絵を見て、季節ごとの人物の行動や周りの様子を説明する。 3提示されている漢字を使って、それぞれの季節の様子を説明する文を書く。 4書いた文を友達と読み合う。	【知・技】 ・第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。((1)エ) ・修飾と被修飾との関係について理解している。((1)カ) 【思・判・表】間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ) 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
三年生をふり返って (書) ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。(知・技(1)ア) ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア) ■1年間の国語科での学びを振り返って、書く。 ☆一人一人のキャリア形成と自己実現を育む題材(特別活動)	13年生の学習を振り返る。 ・P140『『たいせつ』のまとめ』を基に、国語で学んだことを振り返る。 2自分が身につけたと思う言葉の力を書き、友達と伝え合う。	【知・技】言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。((1)ア) 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。(B(1)ア) 【態】進んで経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って1年間の振り返りを書こうとしている。